

# 1 月別気象概況 (2008年1月～2008年12月)

福岡管区気象台

## (1) 1月の気象概況

### 1月上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い

期間の初めに寒気の影響を受けたが、その他は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日は、冬型の気圧配置が強まった影響で断続的に雪が降り、県内各地で0～6mmの降水量を観測した。7日は、低気圧が九州の南海上を通過した影響で、県内各地で0～4mmの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を下回ったが、後半は平年を上回ったため、期間を通しては概ね平年並となった。

県内各地の旬平均気温は4.6～8.1℃(平年差-0.6～+0.9℃)で概ね平年並、旬降水量は0～6mm(平年比0～30%)で少ない、旬日照時間は平年比134～173%が多かった。

### 1月中旬：天気は周期的に変化

#### 11日に大牟田で日最大1時間降水量の1月の極値を更新

低気圧や気圧の谷、寒気の影響を受けて天気は周期的に変化した。11～12日は前線を伴った低気圧が九州付近を通過した影響で、県内各地で11～67mmの降水量を観測した。11日は大牟田で19mmの日最大1時間降水量を観測し1月の極値を更新した。20日は前線を伴った低気圧が九州南岸を通過した影響で、県内各地で26～46mmの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を上回り、後半に平年を下回る日もあったが、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は5.9～8.3℃(平年差+1.6～+2.9℃)で高い、旬降水量は44～99mm(平年比155～476%)で多い、旬日照時間は平年比99～140%で概ね多かった。

### 1月下旬：気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多い

#### 九千部山と耳納山で1月の月降水量の多い方からの極値を更新

#### 23日は福岡でウメ開花

低気圧や気圧の谷、寒気の影響により曇りや雨となる日が多かった。22～23日は気圧の谷の影響で、県内各地で2～12mmの降水量を観測した。28～29日は低気圧や気圧の谷、寒気の影響で、県内各地で7～18mmの降水量を観測した。なお、月降水量が九千部山で98mm、耳納山で78mmとなり1月の月降水量の多い方からの極値を更新した。気温は、期間の中頃に寒気の影響で平年を下回ったが、期間の初めと終わりに平年を上回ったため、期間を通しては平年を上回った。また、23日は福岡でウメの開花を観測(平年より12日早く、昨年より6日早い)した。

県内各地の旬平均気温は4.0～6.3℃(平年差+0.2～+1.0℃)で概ね平年並、旬降水量は10～30mm(平年比48～185%)で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比36～58%で少なかった。

## (2) 2月の気象概況

### 2月上旬：天気は周期的に変化

高気圧と低気圧や寒気等の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。2～3日は気圧の谷や九州の南海上の低気圧の影響で、県内各地で9～28mmの降水量を観測した。気温は、周期的に寒気の影響を受け、平年を下回る日が多かった。

県内各地の旬平均気温は3.1～5.9℃(平年差-1.0～0.0℃)で概ね平年並、旬降水量は10～29mm(平年比74～133%)で概ね平年並、旬日照時間は平年比85～122%で平年並の所が多かった。

### 2月中旬：寒気が流れ込みやすく気温が低い

#### 18日に大牟田で2月の日最低気温の低い方からの極値を更新

高気圧に覆われて晴れの日が多かった。寒気が流れ込みやすく、気温は県内全ての観測所で平年より低く、特に18日は大牟田で日最低気温が-5.3℃となり2月の日最低気温の低い方からの極値を更新するなど、この冬一番の寒さとなるところがあった。13日は寒気の影響で、県内各地で0～18mmの降水量を観測した。

県内各地の旬平均気温は2.3～5.5℃(平年差-3.0～-2.0℃)で低い、旬降水量は0～18mm(平年比0～56%)で概ね少ない、旬日照時間は平年比103～158%で概ね多かった。

### 2月下旬：天気は周期的に変化

#### 大牟田で2月の月間日照時間の多い方からの極値を更新

高気圧と低気圧や気圧の谷が交互に通る、天気は周期的に変化した。26日は前線を伴った低気圧の影響で、県内各地で16～37mmの降水量を観測した。29日は、気圧の谷の影響で、県内各地で0～11mmの降水量を観測した。また、月間日照時間が大牟田で187.4hとなり、2月の月間日照時間の多い方からの極値を更新した。

県内各地の旬平均気温は5.3～7.8℃(平年差-0.4～+0.8℃)で概ね平年並、旬降水量は17～47mm(平年比56～148%)で概ね平年並、旬日照時間は平年比124～145%で多かった。

### (3) 3月の気象概況

#### 3月上旬：天気は周期的に変化

高気圧や低気圧、寒気の影響を受けて天気は周期的に変化した。3～4日は低気圧や寒気の影響で、県内各地で13～80mmの降水量を観測した。9日は前線を伴った低気圧が九州南部付近を通過した影響で、県内各地で1～12mmの降水量を観測した。また、3～4日は福岡で黄砂を観測した。気温は、期間の中頃に寒気の影響を受けて平年を大きく下回ったため、期間を通しては平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は5.8～8.1℃(平年差-1.2～0.0℃)で概ね低い、旬降水量は20～104mm(平年比67～252%)で多い所が多くなり、旬日照時間は平年比103～131%で概ね多かった。

#### 3月中旬：天気は周期的に変化

##### 19日に飯塚、大宰府で日最大1時間降水量及び日降水量の3月の極値を更新

高気圧や低気圧等が交互に通る、天気は周期的に変化した。14日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線が九州北部地方を通過し、県内各地で6～31mmの降水量を観測した。19日は発達中の低気圧が九州南岸付近を通過した影響で、県内各地で27～87mmの降水量を観測した。また、19日は日最大1時間降水量が飯塚で15mm、大宰府で16mmとなり、日降水量が頂吉で87mm、飯塚で71mm、大宰府で65mmとなるなど3月の極値を更新した。気温は、期間を通して平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は10.4～12.6℃(平年差+1.7～+3.1℃)で高い、旬降水量は42～106mm(平年比82～178%)で多い所が多くなり、旬日照時間は平年比130～156%で多かった。

#### 3月下旬：天気は周期的に変化 24日は福岡でソメイヨシノ開花

高気圧と低気圧が交互に通る、天気は周期的に変化した。23日は低気圧の影響で、県内各地で10～49mmの降水量を観測した。30日は、九州の南海上を低気圧が通過した影響で、県内各地で16.0～37.0mmの降水量を観測した。また、24日は福岡でソメイヨシノの開花を観測(平年より2日早く、昨年より3日遅い)した。

県内各地の旬平均気温は9.6～11.5℃(平年差-0.3～0.9℃)で概ね平年並、旬降水量は37.5～84.0mm(平年比81～117%)で概ね平年並、旬日照時間は平年比130～151%で多かった。

#### (4) 4月の気象概況

##### 4月上旬：天気は周期的に変化 2日は福岡でソメイヨシノ満開

高気圧と低気圧や気圧の谷の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。7日は九州付近を通過した低気圧の影響で、県内各地で11.5～28.0mmの降水量を観測した。9日は前線を伴った低気圧の影響で、県内各地で24.0～61.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の初めに平年を下回ったが、期間を通しては概ね平年並となった。また、2日は福岡でソメイヨシノの満開を観測（平年より1日早く、昨年より2日遅い）した。

県内各地の旬平均気温は11.6～13.9℃（平年差-0.9～+1.3℃）で平年並の所が多くなり、旬降水量は39.5～131.0mm（平年比75～122%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比81～96%で概ね平年並となった。

##### 4月中旬：天気は周期的に変化

高気圧や低気圧等が交互に通る、天気は周期的に変化した。16～17日は前線を伴った低気圧が発達しながら九州南部付近を通過した影響で、県内各地で26.0～99.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の中頃までは平年並か平年を上回り、期間の終わりには平年を下回る場所もあったが、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は13.5～15.4℃（平年差+0.1～+1.1℃）で平年並か高いとなり、旬降水量は26.5～105.0mm（平年比68～189%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比76～94%で概ね平年並となった。

##### 4月下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い

期間の初めは曇りや雨の日があったが、その他は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。23日は低気圧の影響で、県内各地で20.0～59.0mmの降水量を観測した。気温は期間の初めと終わりは平年を上回ったが、期間の中頃を中心に平年を下回り、期間を通しては概ね平年並となった。

県内各地の旬平均気温は14.9～16.6℃（平年差-0.7～+0.6℃）で概ね平年並、旬降水量は20.5～59.5mm（平年比41～121%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比123～143%が多かった。

## (5) 5月の気象概況

### 5月上旬：天気は周期的に変化

高気圧と低気圧や気圧の谷の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。5日は九州南部付近を通過した低気圧の影響で、県内各地で2.0～15.5mmの降水量を観測した。9～10日は前線を伴った低気圧の影響で、県内各地で18.0～56.0mmの降水量を観測した。気温は、期間の終わりに平年を下回ったが、その他は概ね平年を上回り、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は17.1～19.2℃（平年差+0.4～+1.5℃）で概ね高い、旬降水量は23.0～63.0mm（平年比34～118%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比99～109%で概ね平年並となった。

### 5月中旬：高気圧に覆われ晴れの日が多い

高気圧に覆われて晴れる日が多かった。19日は九州北部を通過した寒冷前線の影響で、県内各地で雷を伴い14.0～47.0mmの降水量を観測した。気温は平年を上回る日もあったが、概ね平年を下回って経過し、期間を通しては平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は16.1～18.4℃（平年差-1.3～-0.4℃）で低い、旬降水量は16.0～51.5mm（平年比19～74%）で概ね少ない、旬日照時間は平年比136～172%が多かった。

### 5月下旬：天気は周期的に変化

#### 28日は柳川で日最大1時間降水量の5月の極値を更新 九州北部地方は28日頃梅雨入り

高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受けて、天気は周期的に変化した。24日は前線の影響で、県内各地で32.5～62.0mmの降水量を観測した。28～30日は低気圧や前線の影響で、県内各地で30.0～119.0mmの降水量を観測した。特に柳川では28日に42.5mm日最大1時間降水量を観測し5月の極値を更新した。気温は、期間を通して概ね平年を上回った。また、九州北部地方は28日頃梅雨入り（平年は6月5日頃、去年は6月13日頃）した。

県内各地の旬平均気温は19.7～21.7℃（平年差+0.8～+2.1℃）で高い、旬降水量は67.5～194.5mm（平年比167～363%）で多い、旬日照時間は平年比94～108%で概ね平年並となった。

## (6) 6月の気象概況

### 6月上旬：天気は周期的に変化

高気圧と低気圧や気圧の谷の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。2～3日は九州の南海上に停滞する前線の影響で、県内各地で14.5～31.0mmの降水量を観測した。10日は九州の南海上に停滞する前線が次第に北上して、県内各地で0～16.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を下回ったが、後半は概ね平年並で経過し、期間を通しては概ね平年並となった。

県内各地の旬平均気温は20.2～21.7℃（平年差-0.9～+0.4℃）で平年並の所が多くなり、旬降水量は15.5～39.0mm（平年比24～56%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比66～80%で少なかった。

### 6月中旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い

#### 19日は黒木で日最大1時間降水量の6月の極値を更新

梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かった。11日は九州南部付近にあった梅雨前線の活動が活発となり、県内各地で27.5～106.5mmの降水量を観測した。17日は梅雨前線の影響で、県内各地で雷を伴い0.5～52.5mmの降水量を観測した。19～20日は対馬海峡付近に停滞する梅雨前線の活動が活発となり、県内各地で44.5～217.0mmの降水量を観測した。特に黒木では19日に70.5mm日最大1時間降水量を観測し6月の極値を更新した。気温は期間のはじめと中頃に平年を下回る日があったが、その他は平年を上回って経過し、期間を通しては概ね平年並となった。

県内各地の旬平均気温は21.7～23.0℃（平年差-0.3～+0.8℃）で概ね平年並、旬降水量は104.5～381.0mm（平年比148～318%）で多い、旬日照時間は平年比39～61%で少なかった。

### 6月下旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い

#### 21日は添田で日最大1時間降水量の6月の極値を更新

梅雨前線の影響を受けて、天気は曇りや雨の日が多かった。21日は活発な梅雨前線の影響で、県内各地で46.5～160.0mmの降水量を観測した。特に添田では21日に73.5mmの日最大1時間降水量を観測し6月の極値を更新した。28～29日は梅雨前線の影響で、県内各地で39.0～144.0mmの降水量を観測した。気温は、期間を通して概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は21.2～22.8℃（平年差-1.7～-0.8℃）で低い、旬降水量は108.5～338.5mm（平年比69～153%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比46～86%で概ね少なかった。

## (7) 7月の気象概況

### 7月上旬：高気圧に覆われ晴れの日が多い 九州北部地方は6日頃梅雨明け

期間の前半は梅雨前線や湿った気流の影響を受け、曇りや雨の日が多かったが、後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。5日は湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴い0.5～45.0mmの降水量を観測した。気温は、期間を通して概ね平年を上回った。また、九州北部地方は6日頃梅雨明け（平年は7月18日頃、去年は7月23日頃）した。

県内各地の旬平均気温は25.2～27.4℃（平年差+1.5～+2.7℃）で高い、旬降水量は8.5～59.5mm（平年比5～33%）で概ね少ない、旬日照時間は平年比136～202%で多かった。

### 7月中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い

期間の初めと終わりは、湿った気流の影響で曇りや雨の日もあったが、その他は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。17～19日は湿った気流の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で0.0～64.5mmの降水量を観測した。気温は期間を通して平年を大きく上回って経過した。

県内各地の旬平均気温は27.4～29.3℃（平年差+1.5～+2.8℃）で高い、旬降水量は0.0～104.0mm（平年比0～101%）で概ね少ない、旬日照時間は平年比100～135%で概ね多かった。

### 7月下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い

**前原で月平均気温の高い方、宗像、朝倉では月降水量の少ない方、大牟田では月間日照時間の多い方からの極値を更新、29日は行橋で日最高気温37.6℃を観測し、日最高気温の高いほうからの年の極値を更新**  
23日に「高温と少雨に関する福岡県気象情報第1号」を発表

高気圧に覆われて、晴れの日が多かった。28日は日射の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨となったところがあった。気温は、期間を通して平年を上回り、特に行橋では29日に日最高気温37.6℃を観測し、日最高気温の高い方からの年の極値を更新した。月平均気温が前原で28.4℃となり7月の月平均気温の高い方からの極値を更新した。月降水量が宗像20.0mm、朝倉で29.5mmとなり、7月の月降水量の少ない方からの極値を更新した。また、月間日照時間が大牟田で265.2hとなり月間日照時間の多いほうからの年の極値を更新した。なお、23日には「高温と少雨に関する福岡県気象情報第1号」を発表した。

県内各地の旬平均気温は28.3～30.4℃（平年差+1.3～+2.9℃）で高い、旬降水量は0～34.0mm（平年比0～41%）で概ね少ない、旬日照時間は平年比106～140%で概ね多かった。

## (8) 8月の気象概況

### 8月上旬：高気圧に覆われ晴れの日が多いが大気の状態が不安定

#### 1日に「高温と少雨に関する福岡県気象情報第2号」を発表

高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、湿った空気や強い日射の影響で、大気の状態が不安定となり、期間の終わりを中心に県内各地で雷を伴った降水量を観測した。4日は対馬海峡付近に停滞する前線の影響で、県内各地で0.0～70.5mmの降水量を観測した。8～10日は湿った空気と強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴い0.0～78.5mmの降水量を観測した。

気温は、期間を通して概ね平年を上回って経過した。なお、1日には「高温と少雨に関する福岡県気象情報第2号」を発表した。

県内各地の旬平均気温は27.2～29.5℃（平年差+0.7～+2.1℃）で概ね高い、旬降水量は1.0～120.5mm（平年比3～184%）で多い所が多くなり、旬日照時間は平年比97～128%で概ね平年並となった。

### 8月中旬：大気の状態が不安定で雷雨の日が多い

#### 11日に「高温と少雨に関する福岡県気象情報第3号」を発表

高気圧に覆われて晴れの日もあったが、その他は大気の状態が不安定で雷雨となる日が多かった。11日は、湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴い0.0～45.0mmの降水量を観測した。15～17日は熱帯低気圧や前線の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴い21.0～210.0mmの降水量を観測した。19日は九州北部を南下する寒冷前線の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴い12.5～76.0mmの降水量を観測した。気温は期間の中頃と終わりに平年を下回る日があったが、期間を通しては概ね平年を上回った。なお、11日には「高温と少雨に関する福岡県気象情報第3号」を発表した。

県内各地の旬平均気温は26.6～28.5℃（平年差+0.2～+1.1℃）で高い所が多くなり、旬降水量は53.5～296.0mm（平年比104～517%）で概ね多い、旬日照時間は平年比81～108%で平年並の所が多かった。

### 8月下旬：低気圧や前線、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多い

#### 27日は行橋で日降水量の8月の極値を更新

低気圧や前線、気圧の谷の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。22日は前線に向かって湿った空気が流れ込んで、県内各地で雷を伴い16.5～76.0mmの降水量を観測した。27日は東シナ海を東進する低気圧の影響で、県内各地で16.5～177.5mmの降水量を観測した。特に行橋では177.5mm日降水量を観測し8月の極値を更新した。気温は、期間を通して概ね平年を下回って経過した。

県内各地の旬平均気温は23.4～25.4℃（平年差-2.2～-1.2℃）で低い、旬降水量は85.0～219.5mm（平年比92～314%）で概ね多い、旬日照時間は平年比53～87%で概ね少なかった。



## (9) 9月の気象概況

### 9月上旬：天気は周期的に変化

高気圧と低気圧や気圧の谷が交互に通過して、天気は周期的に変化した。1～3日は低気圧や気圧の谷の影響で、県内各地で0.0～55.5mmの降水量を観測した。6～7日は低気圧の影響で、県内各地で0.0～33.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を下回る日もあったが、その他は概ね平年を上回って経過し、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は24.1～26.6℃（平年差+0.1～+1.3℃）で平年並の所が多くなり、旬降水量は0.0～90.5mm（平年比0～103%）少ない所が多くなり、旬日照時間は平年比99～136%で多い所が多くなった。

### 9月中旬：気圧の谷や前線、台風の影響で曇りや雨の日が多い

#### 11日は耳納山で日最大1時間降水量の年の極値を更新

気圧の谷や前線、台風第13号の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。11～13日は湿った気流や気圧の谷の影響で、県内各地で0.5～72.5mmの降水量を観測し、11日には耳納山で56.5mmの日最大1時間降水量を観測し年の極値を更新した。15日は九州付近に停滞する前線の影響で、県内各地で5.0～31.5mmの降水量を観測した。17～18日は九州南部に停滞する前線や、18日に台風第13号が九州南部に接近した影響で、県内各地で1.5～19.0mmの降水量を観測した。気温は、期間を通して概ね平年を上回って経過した。

県内各地の旬平均気温は24.3～25.9℃（平年差+1.4～+2.7℃）で高い、旬降水量は20.5～89.0mm（平年比33～196%）で少ない所が多くなり、旬日照時間は平年比44～64%で少なかった。

### 9月下旬：気圧の谷や前線、台風の影響で曇りや雨の日が多い

#### 26日に行橋で日最大1時間降水量の9月の極値を更新

気圧の谷や前線、台風第13号の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。21日は九州付近に停滞する前線の影響で、県内各地で雷を伴い11.5～50.5mmの降水量を観測した。24～26日は低気圧や前線、気圧の谷の影響で、県内各地で9.5～67.5mmの降水量を観測した。26日に行橋で49.0mmの日最大1時間降水量を観測し9月の極値を更新した。29～30日は九州南部付近に停滞する前線や台風第15号の影響で、県内各地で69.0～127.0mmの降水量を観測した。気温は、前半は平年を上回り、後半は概ね平年を下回ったが、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は21.1～23.3℃（平年差+0.5～+1.8℃）で高い、旬降水量は98.5～208.0mm（平年比152～343%）で多い、旬日照時間は平年比65～87%で概ね少なかった。

## (10) 10月の気象概況

### 10月上旬：高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、低気圧や前線の影響で雨となる日があった

高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、低気圧や前線の影響で雨となる日があった。1日は九州南部付近を通過した低気圧の影響で、県内各地で0.0～7.0mmの降水量を観測した。5日は九州南部付近を通過した低気圧の影響で、県内各地で2.0～20.5mmの降水量を観測した。10日は九州南部付近の前線の影響で、県内各地で0.0～7.0mmの降水量を観測した。気温は、前半は平年を下回る所もあったが、概ね平年を上回り、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は19.4～21.6℃(平年差+0.6～+2.0℃)で高い、旬降水量は2.5～31.0mm(平年比9～67%)で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比85～105%で概ね平年並となった。

### 10月中旬：高気圧に覆われて晴れる日が多い

高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、期間の前半は上空の気圧の谷の影響で雨の降る所があった。11日は県内各地で0.0～1.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を下回る日もあったが、後半は平年を上回り、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は17.9～20.7℃(平年差+0.7～+2.1℃)で高い、旬降水量は0.0～1.5mm(平年比0～5%)で概ね少ない、旬日照時間は平年比127～154%が多かった。

### 10月下旬：気圧の谷や前線、低気圧の影響で曇りの日が多い

#### 頂吉では、10月の月降水量の少ない方からの極値を更新

気圧の谷や前線、低気圧の影響で曇りの日が多く、期間の前半は雨の降る所があった。22～23日は低気圧の影響で、県内各地で1.0～20.0mmの降水量を観測した。24日は上空の気圧の谷の影響で、県内各地で0.0～1.5mmの降水量を観測した。26日は気圧の谷の影響で、県内各地で0.0～1.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の後半に平年を下回る所もあったが、概ね平年を上回って推移し、期間を通しては平年を上回った。月降水量が頂吉で17.0mmとなり月降水量の少ない方からの極値を更新した。

県内各地の旬平均気温は16.0～19.1℃(平年差+1.2～+2.7℃)で高い、旬降水量は1.0～21.0mm(平年比10～127%)で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比51～62%で少なかった。

## (11) 11月の気象概況

### 11月上旬：気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多い

気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。1～3日は気圧の谷の影響で、県内各地で0.0～10.5mmの降水量を観測した。6～9日は前線や低気圧の影響で、県内各地で7.0～21.5mmの降水量を観測した。気温は、期間の中頃と後半に平年を下回る所もあったが概ね平年を上回って推移し、期間を通しては平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は14.6～16.9℃（平年差+0.7～+1.9℃）で概ね高い、旬降水量は8.5～32.0mm（平年比33～123%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比39～62%で少なかった。

### 11月中旬：前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は気圧の谷や低気圧、寒気の影響で曇りや雨の日が多い 19日は福岡で初雪

期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は気圧の谷や低気圧、寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。15～17日は気圧の谷や九州地方南岸を通過した低気圧の影響で、県内各地で4.5～17.0mmの降水量を観測した。18～20日は気圧の谷や寒気の影響で、県内各地で0.0～8.0mmの降水量を観測した。19日は冬型の気圧配置となり強い寒気の影響で、福岡で初雪を観測（平年より24日早く、昨年より41日早い）した。気温は、期間の中頃は平年を上回ったが、終わりは平年を下回り、期間を通しては平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は9.9～12.9℃（平年差-1.9～-0.8℃）で平年並の所が多くなり、旬降水量は7.5～23.0mm（平年比35～106%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比91～123%で概ね平年並となった。

### 11月下旬：天気は周期的に変化

天気は周期的に変化した。21日は低気圧からのびる前線の影響で、県内各地で0.0～9.0mmの降水量を観測した。24日は九州付近を通過する低気圧の影響で、県内各地で11.5～34.0mmの降水量を観測した。27～29日は低気圧や寒気及び前線の影響で、県内各地で2.0～42.5mmの降水量を観測した。また、27日に福岡でイロハカエデの紅葉を観測（平年より8日遅く、昨年より1日早い）した。気温は、中頃は平年を上回った所もあったが概ね平年を下回り、期間を通しては平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は8.3～11.5℃（平年差-1.4～-0.2℃）で概ね平年並、旬降水量は15.0～76.5mm（平年比51～254%）で多い所が多くなり、旬日照時間は平年比88～106%で平年並となった。

## (12) 12月の気象概況

### 12月上旬：中頃からは気圧の谷や前線及び強い寒気の影響で曇りや雨の日が多い 福岡で1日に初霜、7日に初氷を観測

中頃からは気圧の谷や前線及び冬型の気圧配置による強い寒気の影響で曇りや雨の日が多く、6日は雪の降った所があった。4日は前線の影響で、県内各地で9.0～34.5mmの降水量を観測した。5～6日は冬型の気圧配置となり県内各地で7.5～28.5mmの降水量を観測した。8日は気圧の谷の影響で、県内各地で0.0～12.0mmの降水量を観測した。また、福岡で1日に初霜を観測（平年より7日早く、昨年より5日早い）、7日に初氷を観測（平年より8日早く、昨年より1日遅い）した。気温は中頃に平年を大きく下回り、期間を通して概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は6.9～9.6℃（平年差-1.3～+0.1℃）で平年並の所が多くなり、旬降水量は18.0～70.5mm（平年比134～281%）で多い、旬日照時間は平年比87～116%で概ね平年並となった。

### 12月中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い 八幡で日最大1時間降水量の12月の極値を更新

高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、前半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日があった。11日は寒冷前線の影響で、県内各地で0.0～7.5mmの降水量を観測した。13日は低気圧の影響で、県内各地で0.0～5.0mmの降水量を観測した。14日は気圧の谷の影響で、県内各地で0.5～28.0mmの降水量を観測した。15日は気圧の谷の影響で、県内各地で0.0～31.5mmの降水量を観測した。また、15日に八幡で23.5mmの日最大1時間降水量を観測し12月の極値を更新した。気温は平年を下回った所もあったが、期間を通して平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は6.9～9.6℃（平年差+0.2～+1.9℃）で概ね高い、旬降水量は1.0～63.5mm（平年比9～349%）で多い所が多くなり、旬日照時間は平年比137～164%が多かった。

### 12月下旬：はじめと終わりは前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多い 九千部山と耳納山で12月の月降水量の多い方からの極値を更新

はじめと終わりは気圧の谷や前線、冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多かったが、中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。21日は寒冷前線の影響で、県内各地で14.5～51.5mmの降水量を観測した。22日は冬型の気圧配置による寒気の影響で、県内各地で0.0～8.0mmの降水量を観測した。23～24日は上空の気圧の谷と寒気の影響で、県内各地で0.0～1.0mmの降水量を観測した。31日は冬型の気圧配置による寒気の影響で、県内各地で0.0～2.5mmの降水量を観測した。また、月降水量が九千部山では139.5mm、耳納山では116.5mmとなり、12月の月降水量の多い方からの極値を更新した。気温は、平年を下回った所もあったが、期間を通して平年を上回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は6.9～9.6℃（平年差-0.5～+0.7℃）で概ね平年並、旬降水量は17.0～53.0mm（平年比182～396%）で多い、旬日照時間は平年比63～74%で概ね少なかった。

### (13) 月別値の階級区分

#### 福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月降水量	月間日照時間
平成 20 年 1 月	高い	平年並	平年並
平成 20 年 2 月	平年並	平年並	かなり多い
平成 20 年 3 月	高い	多い	多い
平成 20 年 4 月	平年並	平年並	平年並
平成 20 年 5 月	高い	多い	多い
平成 20 年 6 月	平年並	多い	かなり少ない
平成 20 年 7 月	かなり高い	少ない	多い
平成 20 年 8 月	平年並	かなり多い	少ない
平成 20 年 9 月	高い	平年並	少ない
平成 20 年 10 月	かなり高い	かなり少ない	平年並
平成 20 年 11 月	平年並	平年並	少ない
平成 20 年 12 月	平年並	多い	平年並

#### 階級区分について

平成 13 年 1 月から使用を開始した 1971～2000 年統計値からは、「高い（多い）」、「平年並」、「低い（少ない）」の 3 階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い（少ない）」を補足的に用いることになりました。3 階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」（1：1：1）の等確率で、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」の出現率は 10%です。